

平成19年度雪セミナープログラム

日 時 平成20年1月10日(木) 13時30分から16時30分

会 場 福井市宝永3丁目1-1「福井県国際交流会館(2階 第3会議室)」

日 程

13:00 **開 場・受付開始**

13:30 **開 会**

主催者あいさつ 財団法人日本積雪連合 理事 尾身 孝昭 氏
歓迎あいさつ 福井県土木管理課 課長 小川 宣夫 氏

13:50 **講演・自治体等の雪対策の取組み発表**

講演

「国の豪雪地帯対策について～平成18年豪雪を踏まえたその後の対応について～」
・国土交通省都市・地域整備局地方整備課 課長補佐 島多 昭典 氏

自治体の雪対策の取組み

「高齢者等要援護世帯に対する除雪支援の取組みについて」
・新潟県 妙高市健康福祉課 主事 貫和 志行 氏

「地域と現場を見直して創意工夫で生まれる省エネ型融雪」
・福井県 雪対策・建設技術研究所 総括研究員 宮本 重信 氏

「湯沢町における除雪ボランティアの受入れと今後の取組みについて」
・新潟県 湯沢町社会福祉協議会 事務局長 南雲 實 氏

16:30 **閉 会**

平成19年度雪セミナー発表概要

1 講演

「国の豪雪地帯対策について～平成18年豪雪を踏まえたその後の対応について～」

国土交通省都市・地域整備局地方整備課 課長補佐 島多 昭典 氏

平成18年11月に変更された国の豪雪地帯対策基本計画及びその中で新たに位置付けられた市町村における総合的な雪対策計画策定に向けた対応について紹介するほか、除雪ボランティアなど雪処理の担い手確保や担い手の安全の確保、作業の効率化に向けた取組み事例等について紹介する。

2 自治体等の雪対策の取組み

「高齢者等要援護世帯に対する除雪支援の取組みについて」

新潟県 妙高市健康福祉課 主事 貫和 志行 氏

家族関係の希薄化、地域内支援体制の限界など、平成18年豪雪での課題を踏まえて、要援護世帯に対する支援のあり方について検討し、除雪支援マニュアルの作成、要援護世帯台帳の整備、関係機関との情報の共有化、支援内容の見直しなどを行った新潟県内でも先進的な取組である妙高市の事例について紹介する。

「地域と現場を見直して創意工夫で生まれる省エネ型融雪」

福井県 雪対策・建設技術研究所 総括研究員 宮本 重信 氏

歩道無散水融雪と車道散水の地下水再利用融雪、鋼床版橋を潜熱蓄熱材で凍結抑制、基礎杭を兼用しての地中熱融雪、群杭利用での季節間地中蓄熱融雪、消雪用井戸水の防災や橋梁洗浄への利用、防火水槽にヒートパイプを入れて消火栓の自動無動力消雪、汚れて使わない浅い帯水層の治水兼用での利用、豪雪の山間部の沢水の利用、現場を見直せば利用出来るローカルエネルギーや兼用できる設備が潜んでいます。手間とリスクから民間コンサルは儲からないから、そんな提案はやれない。自治体職員ならではの力量発揮、自己実現です。

「湯沢町における除雪ボランティアの受入れと今後の取組みについて」

新潟県 湯沢町社会福祉協議会 事務局長 南雲 實 氏

平成18年豪雪時における湯沢町の地域外ボランティアの受入れの経験から、除雪ボランティア受入れのための環境・注意点などについて紹介する。また、今後の双方向の助け合いに向けた取組について紹介する。

